



7月17日(土)から19日(祝)まで、毎年恒例となった「にほんかい自然写真学校」が開催されました。日本を代表する風景写真家・竹内敏信さん(前ビュー福島潟名誉館長)を筆頭に、11人の豪華教授陣が今年もズラリと顔をそろえました。参加者は、北は青森、南は四国から集まった156人。福島潟の撮影のほか、鳥屋野潟での早朝撮影や関屋浜での夕日と水中花火の撮影実習も行い、密度の濃い3日間の写真学校となりました。



3日目には、鳥屋野潟で早朝撮影。冷たい空気が気持ちいい!



2日目と3目に行われたゼミの様子。活発な意見交換が行われた。



3日目の、教授陣によるシンポジウム。作品づくりのコツ披露。



平成16年度の参加者の皆さん



安藤忠雄氏設計の新葛中竣工

7月20日(火)、葛塚中学校体育館で平成14年度から着手された同校の建築工事などが完成し、竣工式が行われました。生徒を代表して3年生の関本星河さんが「生徒皆で、新葛塚中学校を創っていきます」と喜びの言葉を発表しました。



シートベルト、着用!

7月1日(木)午前7時30分から8時30分まで、新潟大外環状線の商業集積地付近で、のぼり旗を持って交通安全について呼びかける「人間のぼり旗作戦」を実施しました。参加したのは、安全運転管理者協会の皆さんなど総勢80人。ただならぬ雰囲気を感じて、あわててシートベルトをするドライバーが多数見られました。



たっぷり体験! 福島潟の自然文化そして環境活動の輪へ

7月10日(土)・11日(日)、「ねっとわーく福島潟」主催で講演会や福島潟の散策、川舟体験が実施されました。環境教育分野で活躍する高野孝子さんとイギリスのクリス・ロインズさんを招いて行われたこの事業は、福島潟自然文化活動事業補助金を受けています。クリスさんの豊かな自然体験が紹介され、熱心に聞き入る参加者。この体験が環境活動の輪へ広がることを期待します。



福島潟放水路ゴム堰稼働

7月13日(火)、平成15年3月に完成して初めて福島潟放水路の2つの堰が稼働しました。中、下越を襲った「7・13水害」で、福島潟の水位が+60センチ以上となったためゴム堰の稼働(むくろじ)の空気が抜かれ、潟の水が緩やかに日本海へ流れ出て行きました。



真剣なまなざし

7月24日(土)、図書館で「なつやすみおはなし会」が開かれました。絵本の読み聞かせ3話に、子どもの手遊び1つ、「語り」が2話。大人8人、子ども17人が参加し、静寂の中に語り手の声だけが響く中、皆真剣なまなざしを語り手に向けていました。



全国大会で、完全燃焼してきます!

7月21日(水)、全国大会に出場する豊栄高校のメンバーが、市役所に市長を表敬訪問しました。全国大会に出場するメンバーは次のとおり。<左から>空手個人組手/島田 鉄也さん(3年・新潟市) 馬術団体/前田香津成さん(1年・中条町)・曾我健太郎さん(2年・十二)・吉田久男さん(2年・白新町4)・手島久美子さん(3年・新潟市) 書道行書/星野佳子さん(3年・クレストタウン) ※星野さんは欠席

ふるさととよさが 今と昔

その4 葛塚まつり(葛塚稲荷神社秋季祭礼)

■昭和30年ごろの葛塚まつりの様子

下町十字路から稲荷神社に向かって撮影したもの。写真手前の、右から灯籠が出て来た小路が拡幅されて、現在の駅前通りとなった。



現在は信号機が設置された下町十字路。「田沼屋」さんなど、当時から続いているお店も多い。

■昭和3年ごろの稲荷神社前

人々の服装が時代を物語る。大変にぎわっているのがわかる。



昨年9月に撮影した写真。現在でも神社前の様子は驚くほど変わっていない。



毎年9月6日・7日に石動神社で行われる「葛塚石動神社秋季祭礼」と、9月7日・8日に行われる「葛塚稲荷神社秋季祭礼」を合わせて、「一般的に「葛塚まつり」と呼ばれています。 「葛塚まつり」の歴史は古く、宝暦11年(1761)に葛塚市の開市が認められた翌年に始められ、何と240年以上も続いています。そもも旧暦8月(現在の10月)7日・8日が開催日でしたが、明治5年に太陽暦が採用されると、明治6年から祭礼を1カ月遅れの9月7日・8日に変更し、現在に至っています。